會報

201号-250号　総目録　（自 1958年12月-至 1966年4月）

目録分類

論説，研究，随想……（2）

会員通信……（4）

国外関係……（4）

国内関係……（5）

図書紹介……（6）

一般図書紹介……（6）

海外雑誌・山岳団体会報紹介……（8）

付・新着，寄贈図書……（9）

会務報告（I）……（9）

会議，委員会……（9）

庶務，会計等……（9）

日本山岳協会関係……（10）

その他対外関係……（10）

会務報告（II）……（10）

集会および催しもの……（10）

小集会……（11）

支部情報……（11）

会員動静，人事往来……（12）

一般記事……（12）

訃報，追悼……（12）

海外登山情報……（13）

図版，写真……（14）

その他……（14）

論説，研究，随想

		号	通頁
会長就任の御挨拶	日高信六郎	201	(1)
外国隊の印象	藤平　正夫	201	(1)
ヒマルチュリの山名について	松田　雄一	201	(2)
インド登山学校と当会との間の最近における交流	松田　雄一	201	(3)
登頂のすぐ後に (5)～(10)	沼井鉄太郎	201(4), 202(20), 203(31), 204(48), 224(380), 230(474)	
ギド・レイについての筆者に（承前）	成瀬　岩雄	201	(5)
冬期登山についての注意	日本山岳会	202	(13)
今冬の遭難事故	山崎　安治	202	(14)
雪崩紐に関する一考案	藤原　康明	202	(14)
ヒマルチュリへの出発	村木潤次郎	202	(16)
ギリョーネとアマ・ダブラム	松田　雄一	202	(16)
イギリス隊のカフカズ登山	望月　達夫	202	(17)
高頭翁の寿像（遺稿）	伊藤　隼	202	(22)
ヒマルチュリ登山について ① 装備（田辺寿） ② 食糧（山野井武夫）③酸素・医療（住吉仙也） ④ 報道および写真（木村勝久） ⑤ 気象観測（松田雄一）		203	(25)
ヒマラヤ登山準備委員会関西支部報告	住吉　仙也	203	(29)
ヒマルチュリ登山隊員詮衡事情その他報告	日高信六郎	204	(38)
レンズ・フッド	藤島　敏男	204	(44)
天山山脈（中央部）におけるソ連の登山活動 －1927～1956－	吉沢　一郎	204	(47)
主峰への攻撃―ヒマルチュリ登山日誌	松田　雄一	205	(53)
ニマ・テンジンの死	松田　雄一	205	(56)
シエルパ問題解決	松田　雄一	205	(57)
各国ヒマラヤ登山隊の印象	松田　雄一	205	(57)
ヒマラヤ文献展覧会をみて	島田　巽	205	(58)
河口慧海師碑	沼井鉄太郎	205	(59)
白馬神霊のご託宣	日高信六郎	205	(59)
第200回小集会（冠氏，高野氏，武田氏の話）		206	(65)
200 回小集会に列して	鳥山　悌成	206	(66)
ヒマラヤを越える白鳥（正）（続）	松田　雄一	206(68), 207(82)	
茨木さんの絵と牧水の歌と	古沢　肇	206	(71)
コーガン夫人を悼む	川森左智子	207	(77)
奥穂で落ちた話　伊集院虎一―解説 山崎安治		207	(78)
続「マナスル」に対する海外の反響	マナスル報告書編集委員会	207	(80)
金山村行心覚え	木暮　友枝	207	(81)
ネパールのシエルパ問題	大塚　博美	208	(89)
ヒマルチュリ登山に関する経過報告	日高信六郎	208	(90)
バルトロ氷河上の日伊交歓	日高信六郎	208	(91)
滝谷の遭難について	春田　俊郎	208	(94)
西穂高岳登山技術指導者講習会―第1年度行動概要および講評（金坂　一郎）		209	(101)
北方ルートからのエベレスト登頂	山崎　安治	209	(103)
ヒマルチュリより帰って	宮下　秀樹	210	(114)
大ヒマラヤ展を見て	深田　久弥	210	(115)
「ブーム」と自然保護	渡辺　公平	210	(116)
山小屋の女あるじ	永原　輝雄	210	(117)
雪の北アルプス横断記（上）（下）	内山　数雄	210(118), 211(140)	
日本人の記録によるヒマラヤ登山年表（210 号付録）	松田雄一編	210	(131)
補遺と訂正		211(154), 212(171)	
山に志す若い人へ	日高信六郎	211	(133)
高校生登山技術講習会―行動概要，感想および講評	浜野　正男	211	(134)
富士山頂研究所	辰沼　広吉	211	(136)
木暮さんの著書	小野　幸	211	(139)
山の遭難事故統計表について		211	(154)
ロングスタフの手紙とウィンパーの写真	成瀬　岩雄	212	(157)
上高地公園	西岡　一雄	212	(160)
飯豊山山道絵図	藤島　玄	212	(162)
苗場信仰登山の覚書	小林　智明	212	(163)
偶　感	岩永　信雄	212	(169)
新春の反省	松方　三郎	213	(173)
AACK　30 年の回顧	今西　錦司	213	(174)
ノーマン・ハーディを迎えて	成瀬　岩雄	213	(175)
ピエロ・ギリオーネ氏逝く	吉沢　一郎	213	(176)
富士山頂気象観測所員疲労調査報告書	日本山岳会研究部	213	(176)
新版5万分1地形図の話	西村　朕二	213	(178)
富士の雪崩遭難	山崎　安治	213	(182)
AACK 30 周年記念祝賀会に出席して	三田　幸夫	214	(189)
ヒマラヤ便り・チャールズ・S・ハウストンとオーテンバーガー	吉沢　一郎	214	(190)
ヨーロッパの自然のこと	井手　貴夫	214	(191)
ウエストン氏と有明山に登った当時の思い出	石田　吟松	214	(192)
石田吟松画旧を寝覚に訪う	横内　斉	214	(193)
大阪市大遠征隊の遭難 ① ランタン・リルン森本隊長通信（遺稿） ② 大阪市立大学ヒマラヤ遠征隊の遭難 ③ 現地遭難報告（広谷広一郎） ④ 弔電，返電		215	(201)
ギャルツェン・ノルブの思い出	細川沙多子	215	(203)
志村さんの味	高野　鷹蔵	215	(204)
ヒマラヤ遠征の費用とその調達（1961 年3月21日付フィナンシャル・タイムス記事要約）	日高信六郎	215	(204)
第2次登山技術指導者講習会―行動概要，所感および講評（日下田　実）		215	(206)
ウェストン師の百年祭に	尾崎　喜八	215	(217)
富士山南面の勝地	冠　松次郎	216	(221)
ネパールとダージリン	日高信六郎	216	(222)
札幌の槇さん	望月　達夫	216	(224)
水晶岳から忍ケ岡まで―氷河の堆石を求めて	辻村　太郎	216	(226)
混勿(コンナ)山の話	藤島　敏男	216	(228)
インドにおける最近のヒラマヤイズム 追加訂正，追補	松田　雄一	217	(241)
	223(351), 246(748)		
日本のサマヴェル夫妻	松方　三郎	217	(244)
思い出すことども	西岡　一雄	217	(246)
高校登山講習会―行動概要および講評		217	(248)
P 29 遠征―ベースキャンプその他	篠田　軍治	218	(257)
我山荘記	鳥山　悌成	218	(260)
剣の大滝について	冠　松次郎	218	(262)
御岳二の池で泳いで叱られた話―梅沢親光氏を偲ぶ	横内　斉	218	(262)
梅沢親光氏について	F	218	(263)
数字の山―ピーク 29 の山名について	松田　雄一	218	(270)
オスカー・ハウストンとチャールズ・ハウストン	吉沢　一郎	219	(273)
法政大学山岳部 35 周年記念式典の報告	角田　吉夫	219	(274)
レルヒ少佐のプロフィール	広本　賢斉	219	(274)

烏水・小島久太年譜抄　高野　鷹蔵　219（276）
小島烏水展　山崎　安治　219（276）
木暮理太郎の歌　解説・小野　幸　219（278）
220（306）
「山岳」編集余録　望月　達夫　219（286）
60 年の隔たり―読書余録―　島田　巽　220（289）
高所医学シンポジウムに出席して　辰沼　広吉　220（291）
百瀬慎太郎のこと　冠　松次郎　220（294）
百瀬慎太郎　山を失う　横内　斉　220（294）
九重の遭難に思う　橋本　三八　220（296）
山と私　中河　与一　221（309）
ユードル長官と富士に登る　百瀬舜太郎　221（310）
第３次登山技術指導者講義会（最終回）―行動概要，所感および講評　221（312）
山の気象メモ　大井　正一　221（314）
尾瀬の地図と地名　武田　久吉　222（330）
黒部の岩登り　冠　松次郎　222（334）
前穂高の古道　ウェストン・ルートを辿る　山崎　安治　222（334）
関口泰氏と私　瀬名　貞利　222（336）
ともに考えてみたいこと　松方　三郎　223（349）
柳田国男先生の思い出　辻村　太郎　223（350）
チャールズ・ハウストン　インドに赴任　吉沢　一郎　223（350）
地図と地名について―尾瀬付近―　西村　誤二　223（352）
成瀬先生―山春生徒（山崎先生を憶う）　成瀬　岩雄　223（356）
黎明期の二高山岳会（正）（続）　横田　敬一　223（358）
ヒマラヤ登山隊に望むもの―ネパール在住の会員から―　神原　達　223（366）
鈴木牧之と高頭さん　高野　鷹蔵　224（369）
回想の岳人（1）（1）　中島　正文　224(370)，238(592)
中房温泉の日本アルプス登山者名簿　日高信六郎　224（374）
ノエル・ベーカーと山を談る　日高信六郎　224（378）
地図と地名　武田　久吉　224（380）
「山岳日記」について　皆川　完一　224（382）
自然と人生―自然愛護についての感想―　伊藤秀五郎　225（385）
千客万来　松方　三郎　225（389）
山岳会事始め　高野　鷹蔵　225（390）
学生登山に対する方策　日本山岳会　226（401）
地名と当て字　武田　久吉　226（402）
デマベンドの標高　山崎　安治　226（404）
再び世界の最高峰について　吉沢　一郎　226（406）
半世紀前の劔岳登山　河合　良成　227（417）
米国エベレスト隊の成果　山崎　安治　227（420）
秩父宮記念学術賞―生物誌研究会「ネパールヒマラヤの学術調査研究」　日本山岳会ヒマラヤ委員会　227（422）
エベレスト峰登山計画について　委員長 三田　幸夫　228（434）
ヒマラヤ委員会経過報告　ヒマラヤ委員会　228（434）
エベレスト峰登山許可折衝報告　ヒマラヤ委員会　228（434）
「高山深谷」と対面　高野　鷹蔵　228（440）
高山深谷の追加話　〃　233（518）
ヒマラヤ山麓の国　松平　康東　229（449）
秘められた記録（劔岳池の谷初登攀）　山崎　安治　229（450）
池の谷談義　石黒　清蔵　229（451）
テンジン氏来日取止めの顛末　松　田　229（453）
Boiohagur Duanasir と Kampire Dior の話　吉沢　一郎　229（454）
飯豊あちこち　藤島　玄　229(460)，230(474)
西穂高ケーブル問題と上高地の支部長会議および要望書　230（465）
アイガー北壁の完登表　吉沢　一郎　230（468）
黒部の今と昔（上）（下）　冠　松次郎　231(486)，232(504)
山で会った人（1）（2）（3）　松方　三郎　232(497)，233(513)，234(529)
Some Important Unclimbed Peaks in the Himalayas, Karakorum & Hindu Kush　吉沢　一郎　232（498）
訂　正　234（537）
ギド・レイ抄―“モンテ・チェルビーノより”　日高信六郎　232（500）
岳人の奥津城（上）（下）　古沢　肇　232(508)，243(668)
くぢう山名の記　橋本　三八　233（518）
〃　（追加）　〃　234（531）
富士山の自然保護に関する陳情書（抜萃）　233（519）
ヒマラヤにおける婦人登山隊の近況　松田　柳子　233（520）
マナスルの西蔵名とサマの人達　吉沢　一郎　234（530）
A・Cと黒票　吉　沢　234（530）
山の信仰と宗教（上）（下）　故折口信夫述　234(532)，235(550)
二高山岳会と中上川小六郎氏　横田　敬一　234（534）
ガウランドとゴーランド　武田　久吉　235（548）
カイザー元帥の印象　三田　幸夫　236（557）
ローツェ・シャール計画競合についての顛末報告　日本山岳会理事会　236（560）
スペイン高峰初登攀表　吉沢　一郎　236（563）
ディレンファース氏の来日と講演―講演要旨　237（573）
モーリス・エルゾォーグ氏のことば　日高信六郎　237（576）
アーヴィンのアックス（上）（下）　山崎　安治　237(576)，238(590)
「高貴な女子」という高山植物　武田　久吉　237（581）
四谷のオジサン　海野　治良　237（581）
哲学者の旅　伊藤秀五郎　238（589）
ある新制高校山岳部　H.F.　238（595）
この頃の読書から　吉沢　一郎　238（597）
マナスル以前　西堀栄三郎　239（601）
ＪＡＣ　（絵と文）串田　孫一　239（602）
高野君に関する誤謬２件　武田　久吉　239（603）
山の絵　中河　与一　239（603）
上信越あちこち　藤島　玄　239（604）
天保時代の豊後絵図から見た九重・久住山　橋本　三八　239（605）
大正９年（1920）３月の立山スキー行　内山　数雄　239（606）
八甲田山・鹿内翁の訃　村井　米子　239（609）
故人の手紙―高野さんの手紙（1)(2)(3)　荻野　和夫　239（610）
これからの方向　松方　三郎　240（617）
40 才からの健康法　脇坂　順一　240（623）
A List of High Mountains in the Hindu Kush Range　吉沢　一郎　240（631）
エベレスト計画の延期　松方　三郎　241（633）
エベレスト委員会経過報告　エベレスト委員会　241（634）
連休（1965.5）の遭難　遭難対策委員会　241（636）
第３回登山技術研究会報告　241（637）
登山の今昔　神谷　恭　241（638）
思いいづる人々　冠　松次郎　242（649）
故梅沢親光君遺児教育資金始末記　鳥山　悌成　242（650）
木暮祭に想う　望月　雅郎　242（650）
逸存精舎　田中　栄蔵　242（657）
日本山岳協会の新しい考え方について　松方　三郎　243（665）
鹿内辰五郎の思い出　武田　久吉　243（667）

国際アルピニスト集会と君島久登氏の事故顛末報告
倉知　敬　243（670）
自然保護委員会のこと　村井　米子　243（673）
創立 60 周年記念行事について　沼倉寛二郎　244（681）
踏頂三百—西岡一雄を偲んで　今西　錦司　244（682）
東大隊のキンヤンキッシュ峰　吉沢　一郎　244（685）
なだれの分類　金坂　一郎　245（697）
高い山—「深田久弥論」ノート　深沢　忠孝　245（700）
欧州の最高峰とスイスの最高峰　吉沢　一郎　245（701）
大雪山は　タイセツザン？　ダイセツザン？
武田　久吉　245（703）
ローガン余話　川上　隆　245（706）
国際環境生理学会報告　辰沼　広吉　245（711）
NTV の「アイガー北壁」—山に対する考え方に疑問
角田　明　245（711）
二つの思い出　中司　文夫　245（714）
創立 60 周年を迎えて　日高信六郎　246（717）
南極越冬再開に際して　武藤　晃　246（718）
日本の五大高山の初登攀についての覚書　松田　雄一　246（719）
日本のアルピニズム—大島さんを中心に（1）（2）（3）（4）（5）
安川　茂雄
246(722)，247(744)，248(759)，249(771)，250(780)
ドンジェク峰の初登攀とアラスカの山
芳野赳夫，芳野菊子　246（723）
祝 60 周年三首　広瀬　誠　246（726）
エベレスト言始め　山崎　安治　246（729）
リュックサック麻痺　長谷部昭久　246（729）
冠さんに届ける　吉沢　一郎　246（730）
私の近頃　冠　松次郎　247（737）
物故名誉会員の推薦年月　山崎　安治　247（738）
カフカズのこと　袋　一平　247（739）
キンヤンキッシュ（1965）　東大カラコルム遠征隊　247（745）
マッターホルン登頂百年と観光国策　松方　三郎　247（746）
会員章覚え書　松田　雄一　247（753）
槍ケ嶽登山に関する主要文献抄並びに解題（1）（2）（3）
山崎　安治
248(758)，249(770)，250(782)
冬山の遭難防止に対する一意見　石黒　清蔵　249（769）
会報 250 号に思う　松方　三郎　250（777）
ヒマラヤ財団　田中　栄蔵　250（779）
愛鷹山の山名　田畑　真一　250（782）
会報の魅力　島田　巽　250（789）

会員通信—（国外関係）

南極だより　村山　雅美　203（33）
ヒマルチュリ・キャラバン日誌　204（37）
第1信 カトマンズにて（田辺寿）第2信 アルガト・バザールにて（山野井武夫） 第3信 ニヤックにて（山野井武夫）第4信 B.C. にて（竹田寛次）第5信（石坂昭二郎） 第6信（石坂昭二郎） 第7信（田辺寿）ヒマルチュリ私信（村木潤次郎）
米国山岳会を訪ねて　隈部　恵子　208（94）
マッキンレー頂上へ　高橋　進　209（104）
マッキンレーの南壁を登る　吉阪　隆正　209（104）
アピ登山隊通信　209（105）
シャモニ便り　安田　実子　210（121）
ニューヨーク便り　隈部　恵子　210（122）
グリンデルワルドにて　中屋　健一　210（122）
ネパール文献目録をめぐって　神原　達　211（150）
インド便り　神原　達　211（150）
マナリにて　奥川　雪江　211（150）
ベース・キャンプ（デオ・チバ隊）より　細川沙多子　211（151）
アピ峰登頂　平林　克敏　211（151）
ラップランド雪の旅—1959 年 3 月　雨宮　淳三　212（159）
ニューギニアから　風見　武秀　213（182）
N.Z. 便り〈その 1〉〈その 2〉　宇田川允敏　213（183）
カラチにて　斎藤　健治　214（196）
ビッグホワイト・ピーク隊便り—C_2 にて
梶本徳次郎　215（208）
カブールにて　崎田　熙　215（209）
アンデス通信 I　吉沢　一郎　215（219）
グリンデルワルド便り〈その 1〉〈その 2〉
足立源一郎　216（231）
アンデス通信 II　吉沢一郎，藤木高嶺　216（238）
アンデス通信 III—ボリビヤの山々　吉沢　一郎　217（255）
カラコルム便り　島　澄夫　219（284）
シャモニ便り　近藤　等　220（292）
ロッキーの旅　織内　信彦　221（318）
カトマンズ便り　神原　達　221（319）
カラコルム通信　加藤　泰安　222（329）
北大ヒマラヤ遠征隊・チャムラン通信〈その 1〉〈その 2〉　中野　征紀　222（332）
早大ペルー・アンデス通信〈その 1〉〈その 2〉〈その 3〉　222(333)，223(354)
カトマンズ通信　神原　達　223（354）
バンフ便り　村山　雅美　223（362）
ティロールとシャモニーから　松本　義夫　223（363）
訪華友好登山隊より　日本山岳会関西支部　225（389）
欧州旅信　近藤　等　225（392）
ネパール便り　鴫原　啓佑　225（394）
高原の国にて　森谷　虎彦　225（396）
ネパール便り　神原　達　226（412）
カトマンズ便り（ヒマラヤ蝶蛾調査隊）　春田　俊郎　227（422）
台湾便り—戦後日本チームの台湾登山統計(1)
余　初雄　227（429）
ヌンブール初登頂（千葉大隊）　松尾　宏　228（436）
バルトロ・カンリ初登頂（東大隊）　島　澄夫　228（436）
サイパル遠征隊（同志社大）　平林　克敏　228（437）
北大西ネパール遠征隊 第1信　遠藤　禎一　228（437）
カトマンズ所感　神原　直子　228（438）
ボリビア・アンデス便り（神戸大学山岳会）
金井　健二　229（452）
トウインズ試登
東京農大東部ネパール学術調査実行委員会　229（452）
北大西ネパール遠征隊 第2信　安藤　久男　229（453）
シャモニーから　本多　勝一　229（458）
ロングスタッフ翁を訪ねて　杉野目　浩　229（458）
ビラトナガールにて　石原　憲治　229（458）
同志社大・サイパル登頂 第4信〜第6信
平林　克敏　230（466）
都立大・大阪府大合同隊シャルプ峰初登頂
広谷　精啓　230（467）
北大西ネパール遠征隊 第3信　安藤　久男　230（467）
西イリアンの旅から　加藤　泰安　231（490）
立教大学バルン遠征隊　山野井武夫　232（500）
台湾便り　付・戦後日本チームの来台登山統計(II)
余　初雄　234（437）
東京外語大山岳会・ボリビア・アンデス登山隊
向　一陽　235（544）
千葉県ヒマラヤ登山隊　島　澄夫　235（544）

北大アマゾン源流調査隊より　内藤拓・西村豪　235 (545)
カトマンズ情報　神原　達　235 (545)
台湾親善の旅から　橋本　三八　236 (567)
印度エベレスト隊員との交歓　日高信六郎　238 (594)
ナバリー島旅信　飯山　達雄　238 (596)
ペルー通信 (1)　江上　康　240 (623)
ゴジュンバカン通信　高橋　進　240 (625)
カトマンズ通信　石原　国利　240 (626)
台湾山岳協会のプロフィル　余　初雄　240 (626)
ダウラギリⅡ峰　1965 年　沖　允人　241 (640)
マカルー登山許可の交渉から帰って　石原　国利　241 (641)
付・ネパール山岳会のこと，ネパール山岳会規約
パキスタン便り　中村　保　241 (643)
ヒンズークシュ会議に出席して　谷　泰　242 (653)
西部および中部ヒンズークシュの偵察—SHAH FLADI と MIR SAMIR　四方田靖・松倉和義　242 (654)
Lho-Tse Shar　吉川　尚郎　242 (658)
パミールの雪　福田　宏年　242 (659)
サルカンタイ登頂報告　江上　康　242 (660)
ローガン隊便り　川上　隆　242 (660)
マッキンレーより　浅野　清彦　242 (660)
アラスカ便り　芳野赳夫・菊子　243 (672)
グリーンランド登山隊便り (1) (2)　宮原　巍　243(672), 245(707)
オクシャパルカ初登頂 他　高三　公一　243 (673)
パリー通信　小野　尚俊　243 (674)
キンヤンキッシュ後報　加藤　誠平　244 (686)
アンデス便り　江上　康　244 (686)
ローガン峰　川上　隆　244 (687)
ミール・サミール峰　甘利　仁朗　244 (688)
アラスカ便り　高橋　進　244 (688)
シャモニーより　篠田　軍治　244 (688)
カナディアン・ロッキーズ 1965 年　田島　守　245 (702)
コー・イ・モンディ登頂報告　矢野　真　245 (704)
ペルー・アンデス便り　高三　公一　245 (705)
スイスの旅　名須川　浩　245 (705)
シャモニーの登山学校を訪う　日高信六郎　245 (705)
リオネル・テレイとその遭難　小野　尚後　245 (707)
コルディエラ・ノルテ（ペルー）　上智大学山岳部　246 (725)
グリーンランドの印象　宮原　巍　246 (726)
アンデス遠征隊より　石原　国利　246 (730)
Mt. Waddington　1965 年 8 月の試み　角口　想蔵　247 (750)
同志社大・アンデス遠征隊報告(Ⅰ)(Ⅱ)　江上　康
—ペルー入国時の通関問題について　248(761), 250(780)
チリー・アンデス隊　久野英一郎　248 (763)
南極米軍基地より　向　一陽　248 (763)
アンデス隊通信　東海支部アンデス遠征隊　248 (763)
北大パタゴニア通信　遠藤　禎一　248 (767)
シルクロード踏査隊 第 1 信　深田　久弥　250 (787)
アコンカグア南壁を終えて　原　真　250 (787)
アコンカグア南壁　橋村　一豊　250 (789)
中部ネパール踏査隊　薬師　義美　250 (789)

会員通信—(国内関係)

初秋の皇海山　小野　尚俊　201 (7)
初秋の山　井手　貴夫　201 (7)
鳥海山報告（東京支部懇親山行）　角野　仁子　201 (8)
雲の平　坂倉登喜子　201 (8)
粉雪の西吾妻　坂倉登喜子　202 (18)
木曽御岳山　三枝　礼子　202 (19)
奈良井の正月　古沢　肇　203 (32)
秋田駒ケ岳付近　村上　金吾　203 (33)
蛇尾谷拾遺　沼井鐵太郎　204 (49)
蔵王スキー行　山口　節子　204 (50)
日光白根懇親山行（東京支部懇親山行）　中　保　204 (51)
北八ッ岳懇親山行 (　〃　)　磯崎瑠璃子　204 (51)
高頭さんのお墓まいり　日高信六郎　204 (59)
五頭山塊　浜野　正男　205 (60)
黒部よさようなら　冠　松次郎　205 (61)
五月の皇海山　野口　末延　205 (62)
静かな渓谷　塚田　孝治　205 (62)
避衆登山　藤島　敏男　206 (72)
戸隠飯縄山懇親山行　西　川　207 (84)
蔵王越え　北原　春子　207 (87)
快晴の飯豊山　名須川　浩　208 (95)
正月の八溝山　日高信六郎・古沢肇　208 (95)
高頭翁移建除幕式　佐藤　一栄　209 (106)
高頭仁兵衛氏像の移築　冠　松次郎　209 (106)
暑寒別岳に登る　古沢　肇　209 (107)
屋久島遊記　日高信六郎　209 (107)
金山詣で　日高信六郎　210 (113)
春の白山　名須川　浩　210 (120)
秋田駒烏帽子縦走　村上金吾，太田宏　210 (120)
五郎山，天狗山，男山　望月　達夫　210 (121)
小野子山と子持山　名須川　浩　210 (121)
皇海山と古峯ケ原　日高信六郎　210 (122)
札幌だより　望月　達夫　211 (142)
再び小川山へ　野口　末延　211 (142)
杉の峯より不忘山　松本熊次郎，野口末延　211 (142)
空木岳と南駒ケ岳　野口　末延　211 (142)
利尻岳　村上　金吾　211 (142)
会津駒・袖沢の遡登　小林　智明　211 (143)
飯豊登山のこと　斎藤　健治　211 (143)
還暦偶感　石黒　清蔵　211 (144)
婦人部便り・飯豊山と雲の平と—34,35 年の夏の旅—　坂倉登喜子　211 (148)
銀山平と尾瀬ケ原　日高信六郎　212 (164)
雄国沼に遊んで　野口　末延　212 (164)
礼文島と大雪山　望月　達夫　212 (164)
八幡平の旅〈詠草〉　小林　智明　212 (165)
小川山越え　池田　光二　212 (165)
会員の声　212(170), 213(186), 215(218), 220(306)
開聞岳から　渡辺　公平　213 (182)
久住から　加藤　数功　213 (182)
九州の春山　折元　秀穂　214 (196)
早春の富士　中　保　214 (196)
札幌通信　望月　達夫　215 (208)
3 月の大日岳　小林　智明　215 (209)
3 月の蔵王スキー行　安彦　六郎　215 (209)
春の丸山岳と会津朝日岳—黒谷川を遡行　小林　智明　216 (230)
岩苔小谷と鏡平　坂倉登喜子　216 (230)
奈良短信　陰地　章　216 (231)
アイスランド，飯豊，六甲　田中　薫　217 (248)
北日高の山旅　望月　達夫　217 (249)
20 年目の秋田駒　横田　敬一　217 (250)
夏山歩き　藤島　玄　217 (251)
山だより　日高信六郎　218 (264)
野麦峠の旅　谷本　弘　218 (265)
（付）野麦峠の古碑について　F
札幌秋信　望月　達夫　219 (280)
秋山歩き　藤島　玄　219 (281)

雲取山荘から　新井信太郎　219（285）
3月の石鎚山　松長　晴利　220（297）
会津駒ケ岳　吉田　竹志　220（298）
道志川，雁腹，神流川　川崎　精雄　220（299）
春山二つ—余市岳，狩場山　望月　達夫　221（318）
東京支部忘年山行—奥武蔵，武甲山　Y．I．　221（324）
能登の旅　藤島　玄　222（340）
飯豊連峰山開き　山崎　安治　222（341）
太郎兵衛小屋にて　小野　利次　222（341）
梓会の復活　茶谷　東海　222（341）
北海道の穴—奥尻の沢歩き　森谷　虎彦　223（358）
冬の山を夏山のつもりで　荒尾　宏　223（359）
朝日連峰より三面川へ　池田　光二　223（362）
大隅半島の東海岸　古沢　肇　223（363）
笹ケ峰牧場より小谷温泉へ　谷本　弘　225（394）
野呂川の開発道路　日高信六郎　225（394）
湯西川のほとり—枯木山と明神岳　小野　幸　225（394）
早池峰山　原田　之幹　225（395）
短　歌　小林　智明　225（395）
思い出の写真帖から　神津得一郎　226（408）
栗駒山とその南麓（宮城県側）の温泉群　村上　金吾　226（413）
銀山平の重太郎　藤島　玄　227（422）
五月の羅臼岳　望月　達夫　227（428）
千島の思い出　水野　公男　227（428）
穂高岳山荘 40 年の記念登山　村井　米子　228（439）
地図のない島の旅　古沢　肇　229（461）
十月の早池峯山　村上　金吾　230（475）
二月の戸隠山　坂倉登喜子　231（490）
テンジン氏関西訪問の旅に同行して　小方　全弘　231（490）
片瀬峠　渡辺　公平　232（509）
山信一束　日高信六郎　233（522）
北岳山行　君島　久登　233（522）
新発田から　佐久間淳一　233（522）
新潟から　斎藤　平七　233（522）
新潟国体を偲ぶ　石黒　清蔵　233（523）
新潟地震　藤島　玄　234（536）
秋田駒周辺　村上　金吾　234（536）
8月の旅から　中村　謙　234（537）
八甲田スキー山行—東京支部婦人部　富　田　234（539）
ついでに登った山　日高信六郎　235（549）
新潟地震　豊田　春満　235（549）
羅臼岳登山　井手　貴夫　236（565）
船形山　村上　金吾　236（566）
朝日あちこち　藤島　玄　237（580）
砥石山のスキー・ヴァンデルング　井手　貴夫　237（580）
石鎚山　松長　晴利　238（594）
小野岳に登る　小林　智明　238（596）
東・北海道短信　平野　明　238（596）
沢とイワナとオヤジ　中屋　健一　239（608）
誘われた山登り　日高信六郎　239（608）
札幌来訪の松方さん　高沢　光雄　241（640）
言語学の研究に　高島　誠　241（643）
再びネパールより帰国　風見　武秀　241（643）
〈佐渡三題〉
佐渡の山々　藤島　玄　242（651）
佐渡の印象　中河　与一　242（652）
鄙びた佐渡を訪ねる会　佐藤　一栄　242（652）
十勝岳裏通り　森谷　虎彦　242（656）
あいさつ（北大体育会山岳部）　242（656）
奥高野へのいざない　仲西政一郎　242（658）
蔵王の山開き　村井　米子　242（659）
安達太良山の石楠花　村井　米子　242（659）
飯豊の梅花皮沢　五十嵐　力　243（674）
八甲田山　村上　金吾　244（682）
白山に登る　亀田与三次　244（683）
ニペソツ山信　平野　明　244（684）
利尻島から　尹　官炳　244（684）
八月の御神楽岳　古沢　肇　244（686）
ドイツへ（出発挨拶）　宮下　啓三　244（688）
日印合同婦人ヒマラヤ遠征隊　趣意書　三田　幸夫　244（692）
立山・飯豊・尾瀬　五十嵐　力　245（705）
岩手の対蹠的な二つの宿　清水　周一　245（708）
白山で遭難した昭博君　亀田与三次　246（722）
ゆさぶられる栗駒山　村上　金吾　246（727）
新雪，紅葉の旅　荻野　和夫　246（730）
東京支部記念山行に参加して　永原　輝雄　246（730）
九月の高畑山と大嵐山　川崎　精雄　247（748）
日印合同婦人ヒマラヤ遠征隊 派遣中止　三田　幸夫　247（749）
地　震　小池　文雄　249（771）
のぼらなかった山，のぼれなかった山　日高信六郎　250（781）
果無山・附・雲取越のこと　古沢　肇　250（781）
地方会員の声（会報発行について）　金山　淳二　250（787）
ケニス・メイスンの手紙　望月　達夫　250（787）

図　書　紹　介

一　般　図　書

初恋の山（川森左智子著）　201（7）
山恋い（川崎隆章編）　201（7）
大氷河を行く—南米チリ・パタゴニア探険（田中薫著）　望　月　202（20）
ARGENTINOS AL HIMALAYA（Dr. A.E. Magnani 1955）　松　田　203（30）
雲表に聳ゆる峯々（A・エクラー著，横川文雄訳）　松　田　203（31）
日本アルプス（深田久弥著）　S.H.　203（31）
ピッケルの思い出（槙有恒著）　望　月　203（31）
氷河への旅—ジュガール・ヒマール探査行（深田久弥・風見武秀共著）　望　月　204（43）
謎の山・アムネ・マチン（J・クラーク著　水谷準訳）　吉　沢　204（44）
黒　部（冠松次郎著）　岩永　信雄　205（60）
富士—岡田紅陽写真集　日高信六郎　205（60）
チョゴリザ登頂（桑原武夫著）　藤島　敏男　206（74）
雲の上の道（深田久弥著）　藤島　敏男　206（74）
奥秩父研究（原全教著）　T.S.　207（83）
針ノ木岳（大町山岳博物館編）　日　高　207（83）
秘境ブータン（中尾佐助著）　望月　達夫　207（83）
ザイル—強さと正しい使い方—（梶原信男著）　金坂　一郎　208（96）
ガッシャーブルム Ⅳ（F・マライニ著）　日高信六郎　208（96）
ネパール文献目録（神原達編）　松田　雄一　208（97）
天国，地獄，ヒマラヤ（レッヒェンペルク著，福田宏年訳）　松田　雄一　208（97）
ヒマルチュリ（村木潤次郎著）　山崎　安治　209（108）
ヒマルチュリ日記（石坂昭二郎著）　山崎　安治　209（108）
山に帰る（慶大体育会山岳部編）　山崎　安治　209（108）
北大山岳部々報8号（北大体育会山岳部編）　山崎　安治　209（108）
続・山と書物（小林義正著）　望月　達夫　209（108）
越後の山旅—下越地方編（藤島玄）　金坂　一郎　209（109）

滝谷—1959 年10月18日（東大スキー山岳部編）
山崎　安治　210（123）
大ヒマラヤ展目録　F　210（123）
SELECTED INDEX OF REPORTS ON HIMALAYA, TIBET, AND CENTRAL ASIA TO THE GEOGRAPHICAL JOURNAL, Vol. 1 (1893)-Vol. 125 (1959)（薬師義美編）　松田　雄一　211（145）
CONTENTS AND INDEX TO THE HIMALAYAN JOURNAL. Vol. I (1929)-Vol. XXI (1958)（諏訪田栄蔵，薬師義美編）　松田　雄一　211（145）
ネパールの高地にて（N・ハーディー著，神原達，牧野登共訳）　松田　雄一　211（146）
針葉樹 12 号（一橋大学山岳部編）　山　崎　212（166）
山刀 14 号（飛騨山岳会編）　山崎　安治　212（166）
マナスル　1954～56　松田　雄一　212（167）
日本山岳全集 第6巻（三田幸夫，深田久弥監修）
Y　213（184）
渡良瀬川源流の山（小野尚俊著）　日高信太郎　213（184）
高校生登山技術講習会報告書（日本山岳会登山技術研究会）　F　213（184）
冬山技術セミナー（金坂一郎著）を読んで
谷口　現吉　214（194）
ネパール関係新刊書（バジェラチャリア夫人編「ネパール」(1960-61)，プラディウム・P・カラン博士著「ネパール」（人文及自然地理）　日　高　214（194）
登頂ヒマルチュリ（山田二郎）　望月　達夫　215（210）
北八ツ彷徨（山口耀久著）　望月　達夫　215（210）
山毛欅叢書（加藤武三著）第1集～第7集
F　215(211)，216(233)
「会津の山々・尾瀬」（川崎隆章編）を読んで
三田　幸夫　216（228）
ノシャック登頂（京大学士山岳会編）　深田　久弥　216（232）
アピ（悲劇と幸運の山）（江上康著）　山崎　安治　216（232）
垂直と水平の道（渡辺兵力，高木正孝著）　織内　信彦　216（233）
わが愛する山々（深田久弥著）　尾崎　喜八　216（233）
登山技術（全3巻）（日本山岳会編）　217（252）
雪と岩（G・レビュファ著，近藤等訳）　山崎　安治　217（252）
知床日記（木下弥三吉記念会編）　F　217（252）
Olympia, No. 8, 1961, Oct.　田村　扇一　217（253）
山とお花畑—原色写真でみる高山植物—（田辺和雄著）
名須川　浩　218（266）
足引（創刊号）（国学院大学体育会，同OB・山岳部編）
F　218（267）
原始境から文明境へ（吉阪隆正著）
—アラスカ，カナダの旅—　渡辺　操　219（282）
山の気象 第1集（山の気象研究会編著）
—登山者のための研究と記録—　大谷　東平　219（282）
劔の窓（山崎安治著）　日高信六郎　220（292）
本の手帖—山の本特集号　山崎　安治　220（300）
牧之—120 年記念出版—（塩沢町・鈴木牧之顕彰会編）
小野　幸　220（300）
蝦夷日誌（松浦武四郎著，吉田常吉編）　山崎　安治　221（320）
ヒマラヤ—秘境に生きる人びと—（川喜田二郎，高山竜三著）　深田　久弥　221（320）
女6人ヒマラヤを行く（細川沙多子著）　週刊時事　221（320）
女5人ニュージーランドを行く（佐藤テル編）
宇田川允敏　221（321）
炉辺 第7号（明治大学山岳部編）　望月　達夫　222（338）
マチャプチャリ—ヒマラヤで一番美しく峻しい山—（ウィルフリッド・ノイス著・深田久弥訳）　松田　雄一　222（339）
関西学生山岳連盟報告 第 11 号　山崎　安治　222（339）
山のガキ大将たち（三田幸夫著）　松田　雄一　223（360）
山を想へば（百瀬慎太郎著）　山崎　安治　223（361）
渓（たに）（冠松次郎著）　田部　重治　223（361）
山の本偶感　F　223（361）
THEY SURVIVED（Wilfrid Noyce の遺著）
今井　雄二　224（372）
裏がえしのインド（西丸震哉著）　Y.Y.　224（376）
秋山記行（鈴木牧之著）　小野　幸　224（376）
放送台本「マッターホルン登山鉄道」（木原孝一脚色）
F　224（376）
シルク・ロード（深田久弥著）　日高信六郎　225（392）
大阪市大ランタン・リルン遠征報告書（大阪市大ヒマラヤ委員会編）　山崎　安治　225（393）
蔵王年の歩み—1962 年版（伊東五郎編）　F　225（393）
山に関するアンケート集（日本山岳会静岡県支部編）　225（397）
山日記（1963 年版）（日本山岳会編）　F　225（397）
Standard Encyclopedia of the World's Mountains
今井　雄二　226（410）
インディオの秘境（藤木高嶺著）　山崎　安治　226（411）
北海道の旅（串田孫一著）　望月　達夫　227（426）
越後の山旅—上越沿線の山々（藤島玄著）
山崎　安治　227（426）
登山の会話について—「インディオの秘境」(藤木高嶺著）を読んで　F　227（427）
越中立山古文書（木倉豊信編）　山崎　安治　228（442）
シャモニの休日（近藤等著）　山崎　安治　228（442）
歴史の山と高原の旅（安川茂雄著）　山崎　安治　228（443）
南アルプス—アルパイン・ガイド（山本朋三郎著）
F　228（443）
はるかなるエベレスト(W・H・マリー著，山崎安治訳)
望月達夫，松田雄一　229（454）
「山があるから」（深田久弥著）　織内　信彦　229（456）
山・よき仲間（成瀬岩雄著）　深田　久弥　229（456）
アルプスの主・嘉門次（佐藤貢著）　望月　達夫　229（457）
評伝・松浦武四郎（吉田武三著）　望月　達夫　229（457）
白馬（東京教育大山岳部編）　山崎　安治　229（457）
登山の先駆者たち（熊原政男著）　山崎　安治　230（472）
槍岳開祖播隆（穂刈三寿雄）　小野　幸　230（473）
山日記（1964 年版）の刊行　F　230（473）
天と地の間に（G・レビュファー著，近藤等訳）
山崎　安治　231（489）
図解コーチ・冬山（芳野赳夫著）　山崎　安治　231（489）
「山の素描」　望月　達夫　231（490）
足引 第2号（国学院大学体育会，同OB・山岳部）
F　231（490）
この山なみの声（信濃毎日新聞社編）　S.H.　232（506）
ブロード・ピーク（マルクス・シュムック著，横川文雄訳）　吉沢　一郎　232（506）
近頃の本　吉沢　一郎　232（506）
美しい風景への挽歌—「高原風物誌」（今井雄二著）を読んで　渡辺　公平　233（523）
ヒマラヤの高峰 第1巻（深田久弥著）　日高信六郎　234（536）
ヒマラヤ・サイパル登頂（平林克敏著）　吉沢　一郎　235（552）
登山の基礎（山崎安治，金坂一郎著）　川上　隆　235（552）
石器時代への旅（H・ハラー著・近藤　等，植田重雄訳）
吉沢　一郎　235（553）
「スイス人と山」（アーノルド・ラン著）「赤いピーク」（マルコム・スレッサ著）　今井　雄二　236（565）
日本山岳会学生部年報 No. 1, 1963　F　236（565）
日本百名山（深田久弥著）　日高信六郎　237（582）
針葉樹 第 13 号（一橋大山岳部編）　山崎　安治　237（583）

関西学生山岳連盟報告 第14号 (1964) 山崎 安治 237 (583)
山 伏 (和歌森太郎著) 村井 米子 237 (583)
北壁—原武遺稿集— 望月 達夫 237 (583)
私の草木漫筆 (坂本直行著) 望月 達夫 237 (584)
1963 年度中華民国訪問親善登山隊報告書(日本山岳会静岡支部) F 237 (584)
白馬岳—アルパイン・ガイド 48— (小野尚俊著) F 237 (584)
山日記 (1965 年版) 237 (586)
東海山岳 (No. 1) 1964 (日本山岳会東海支部編) F 238 (597)
台湾玉山と周辺の山報告書 (八幡製鉄山岳部OB会編) F 237 (597)
登山地図帳 65—九重, 飯田高原, 久住高原, 万年山— (加藤数功, 橋本三八編) F 238 (597)
あしなか 92 輯—ヒマラヤの人 (山村民俗の会編) F 238 (597)
一人ぼっちのヒマラヤ (向後元彦著) 望月 達夫 239 (609)
山旅と随想—紀行随筆集 (田部重治著) 小野 幸 239 (609)
東ネパール—生態調査とヌンブールの登頂— (沼田真編) 松田 雄一 240 (628)
心に山ありて (今井雄二, 今井登喜子著) 島田 巽 242 (661)
雪原の足あと (坂本直行著) 松方 三郎 242 (661)
Japan Quarterly Vol. XII, No. 3, July-September 1965 松 田 244 (689)
"Chronique Himalayenne"—Supplément (Marcel Kuzy) 吉 沢 244 (689)
わが青春はヒマラヤの頂—単独初登頂記(田村宏明著) 吉 沢 244 (689)
日本ネパール文化協会報 第1巻, 第1号 松 田 244 (690)
アルピニスト教典 (ニコライ・クジミン, ボリス・ルコデリニコフ著) 袋 244 (690)
「登高行」16 号 (慶応義塾体育会山岳部編) 山崎 安治 246 (728)
読史雑考 付・青い目の見た富士山 (片山勝著) 山崎 安治 246 (728)
アルプス—山と人と文学 (近藤等著) 吉 沢 246 (728)
「ガムス」創立 30 周年記念号 (山岳巡礼倶楽部編) 吉 沢 246 (729)
立山史談 (佐伯立光著) 小野 幸 247 (750)
久住山志植物編 (工藤元平著) Y.M. 247 (750)
On the Heights (Walter Bonatti) 吉沢 一郎 247(751), 248(763)
新着図書紹介— (1) Bataille pour le Jannu (J. Franco et L. Terray) (2) Indian Mount Everest Expedition 1965. (3) Final Report, Physiological Studies on Mt. Everest Climbers (W.E. Siri) 松 田 247 (752)
洋書若干 田中 栄蔵 248 (762)
マツターホルン百年 (アーノルド・ラン著) 日高信六郎 248 (762)
山・スキー・みち—続・垂直と水平の道(渡辺兵力著) 吉 沢 250 (792)
上信越高原国立公園 苗場・谷川・岩菅集成図 (藤島玄編) Y.M. 250 (792)
日本山岳会学生部年報 No. 2, 1964 Y.M. 250 (792)

海外雑誌・山岳団体会報 (アルファベット順)

Alpinismus 3 Jg., 1956.10 松 田 248 (764)
Apparachia (アパラチア山岳会会報)
Vol. 35, No. 3, 1965.6 松 田 248 (764)
Club Andinista Mendoza (アルゼンチン・メンドサ山岳会会報) No. 20, 1958 〃 203 (30)
De Berggids (オランダ山岳会報) 1965.4 〃 245 (713)
Der Bergsteiger, 1966.1 〃 250 (791)
Harvard Mountaineering (ハーバード大学山岳会会報) No. 17, 1965.5 〃 248 (764)
Jahrbuch des Deutschen Alpenvereins (ドイツ山岳会年報) 1964 〃 248 (764)
Jahresbericht (ベルン大学山岳会会報) Vol. 52, 1957 〃 203 (30)
Jugend am Berg (ドイツ山岳会青年部会報) 1958 〃 203 (30)
Mitteilungen des Deutschen Alpenvereins (ドイツ山岳会月報) 1958.3 〃 203 (30)
Mountaineering (英国登山協議会報告書) Vol. 7, 1965, Spring 〃 244 (690)
Österreichische Alpenzeitung (オーストリー山岳会会報) 1340 号・1341 号 (1965) 〃 245 (713)
1342 号 (1965) 〃 247 (752)
1343 号 (1965) 〃 250 (791)
Revue d'alpinisme (ベルギー山岳会年報) 第7集 〃 203 (30)
Rivista Mensile (イタリー山岳会会報)
Vol. 79, No. 9, No. 10, 1960 日 高 214 (195)
Vol. 84, No. 5, No. 7, 1965 松 田 245 (713)
Vol. 84, No. 9, 1965 〃 248 (764)
台湾山岳 (台湾省山岳会会報)
第 14 巻 第4期 〃 245 (713)
第 14 巻 第5期 〃 250 (792)
The Alpine Journal
Vol. 63, No. 296, 1958. 5 T.M. 202 (19)
Vol. 63, No. 297, 1958.11 T.M. 202 (19)
Vol. 64, No. 298, 1959. 5 望 月 206 (72)
Vol. 64, No. 299, 1959.11 望月 達夫 210 (123)
Vol. 65, No. 300, 1960. 5 〃 212 (166)
Vol. 65, No. 301, 1960.11 〃 215 (210)
Vol. 66, No. 302, 1961. 5 K.F. 219 (282)
Vol. 67, No. 304, 1962. 5 Y.Y. 223 (361)
Vol. 67, No. 305, 1962.11 Y.Y. 226 (411)
Vol. 68, No. 306, 1963. 5 Y.Y. 230 (472)
Vol. 68, No. 307, 1963.11 Y.Y. 232 (506)
Vol. 69, No. 308, 1964. 5 T.M. 237 (582)
Vol. 69, No. 309, 1964.11 T.M. 237 (582)
The American Alpine Journal (アメリカ山岳会会報) Vol. 11, No. 1959 望 月 206 (73)
The Canadian Alpine Journal (カナダ山岳会会報)
Vol. 42, 1959, Vol. 43, 1960 松田 雄一 211 (146)
Vol. 48, 1965 松 田 244 (690)
The Himalayan Journal
Vol. 20, 1957 T.M. 203 (30)
Vol. 21, 1958 金 坂 207 (84)
Vol. 22, 1959/60 山崎 安治 219 (283)
Vol. 25, 1964 松 田 250 (791)
The Himalayan Mountaineering Journal (ヒマラヤ登山学校会報) Vol. 1, No. 1, 1965.7 〃 247 (752)
The Mountain World 1958/59 T.M. 202 (19)
1960/61 松田 雄一 220 (300)

The New Zealand Alpine Journal（ニュージーランド山岳会会報）Vol. 21, No. 1, 1965 松　田　250（790）
付，**新着・寄贈図書**
新着図書—204(50), 212(168), 217(252), 223(361), 227(427) 232(511), 211(149)240(627), 242(662), 245(713), 248(764)250(790)
寄贈図書—211(149), 213(184), 216(233), 220(301), 220(306) 224(377), 230(472), 236(565)＝オスカー・ハウストン文庫, 237(586), 238(598), 244(689), 250(793)
図書委員からのお願い　216（232）
フランス山岳会報（La Montagne）についてお願い　220（301）
蔵書交換についてのお願い　240(627), 245(714)
山岳部報寄贈のお願い　250（791）
「山岳」についてのお願い　250（795）

会　務　報　告（I）

会　議　・　委　員　会

会員総会
臨時総会（1958.10.25）201(9), 1959 年度　204(49)
1960 年度　209(109), 1961 年度　215(212)
1962 年度　221(322), 1963 年度　227(424)
1964 年度　232(502), 1965 年度　239(612)
役員総会
1958 年度—201(5), 201(10), 202(22), 203(34)
1959 年度—204(49), 204(51), 205(62), 206(74)
1960 年度—209(110)
1961 年度—220(302)
理　事　会
1958 年度—201(9), 202(19)
1959 年度—204(49), 204(51), 205(62), 205(63) 206(74), 207(85), 208(97)
1960 年度—210(124), 212(167), 213(185), 214(198)
1961 年度—215(214), 216(234), 217(250), 219(282)
1962 年度—222(340), 222(341), 222(342), 223(363) 224(378), 226(414)
1964 年度—233(526), 235(554), 237(584)
1965 年度—241(646)
常務理事会
1965 年度—243(677), 243(678), 244(694), 245(712) 247(753), 248(765), 249(773), 250(792) 250(793)
理事・評議員会
1959 年度—209(109)
1960 年度—210(123), 211(147), 214(198), 215(212)
1961 年度—216(234), 217(251), 218(266), 219(283) 220(302), 221(322)
1962 年度—222(340), 223(362), 224(378), 225(396) 226(410), 226(411), 226(412)
1963 年度—227(426), 227(428), 228(446), 229(460) 230(476), 230(477), 231(492), 232(510)
1964 年度—233(526), 234(538), 235(553), 236(568) 237(585), 238(598), 239(614)
1965 年度—240(628), 240(629), 241(646), 242(662) 243(677), 244(693), 245(712), 246(732) 247(754), 248(765), 249(773), 250(792)
評議員会
1959 年度—208(98)
海外登山審議委員会　208（97）
支部長会議　205(62), 216(235), 222(342),236(567),241(645)
支部長懇談会　210（124）
登山技術研究委員会　218（267）
図書委員会　220(301), 220(303), 221(327), 222(343) 223(360), 224(376), 226(411), 230(470) 250(793)
学生部報告　219(284), 224(380), 229(458), 233(525) 234(539), 248(766)
海外連絡委員会　242(661), 243(676), 245(712), 246(733)
創立 60 周年記念展覧会実行委員会　250（794）

庶　務　・　会　計　等

1959 年度役員，同業務分担　204(49), 205(62)
定款変更の件文部省より認可　205（63）
理事の英文名称決定　206（74）
1959 年度収支決算，財産目録　209（109）
1960 年度役員および業務分担　209（109）
マザマ・クラブへプラーグ贈呈　209（111）
ルームの改装　210（123）
ヒマルチュリ登山隊費報告　成瀬　岩雄　210（127）
富士山頂研究所実施要領　211（136）
ヒマラヤ登山学校寄贈装備　211（149）
1961 年度体協国際スポーツ行事用外貨予算枠割当申請についてのお知らせ　211（154）
1961 年版山日記刊行　212（170）
「山岳」第 55 年発刊予告　212（170）
「マナスル 1954～6 年」発行　213（184）
1960 年度収支決算，財産目録，1961 年度予算案　215（213）
1961 年度役員および業務分担　215（212）
木暮碑建設明細書　215（214）
イタリー山岳会から弔詞（ランタン・リルンの遭難に対して）　216（231）
ガルツエン遺児援助資金のお願い　216（238）
会告—国際スポーツ行事用外貨枠割当申請に関する件　217（243）
「山岳」第 56 年内容予告　217（254）
ルーム並に山荘基金寄付のお願い　218（261）
「山岳」の広告についてお願い　218（270）
ガルツエン遺児募金結果報告　219（273）
日本山岳会蔵書目録—和書—完成　221（321）
1961 年度収支決算，財産目録，1962 年度予算案　221（323）
1962 年度役員および業務分担　221（322）
「山岳」第 56 年刊行　221（327）
富士山頂診療所実施について　222（331）
上高地山荘開設のお知らせ，使用規定　222（332）
ルーム並に山荘基金の報告　222（333）
ヒマラヤ委員会，委員新任　223（363）
会告—1962 年度国際スポーツ行事用外貨割当申請に関する件　223（364）
「山岳」第 57 年内容予告　223（364）
「山岳」編集者から　望月　達夫　223（364）
医療連絡会だより　田村　扇一　225(387), 238(594)
エベレスト成功に祝電（アメリカ隊宛）　226（405）
山日記口絵用写真懸賞募集　226（410）
上高地山荘開設　227（423）
1962 年度収支決算・財産目録，1963 年度予算案　227（425）
1963 年度役員および業務分担　227（424）
「山岳」の礼状（アメリカ山岳会のオーバリン氏より）　228（443）
「山岳」第 58 年内容予告　228（446）
上高地の本会山荘の名称について　228（447）
1963 年度収支決算，財産目録，1964 年度予算案　232（502）
1964 年度役員および業務分担　232（502）
ルーム移転の通知　233（513）
「山岳」に対する礼状（アメリカ山岳会オーバリン氏より）　234（539）

「山岳」第 59 年内容予告，同一部訂正　234(539)，236(570)
山日記　1965 年版刊行　237（586）
「山岳」第 59 年発刊　238（598）
1964 年度収支決算，財産目録，1965 年度予算案　239（613）
1965 年度役員および業務分担　239（612）
1965 年度各担当理事の運営方針について　240（618）
「マナスル」頒布のお知らせ　240（629）
東北ネパール地図頒布　241（644）
スポーツ外貨登山計画書の提出について　241(645)，242(651)
名誉会員推薦等に関する内規　245（712）
お知らせ（会報綴込みファイルの件）　246（719）
60 周年記念事業収支報告　246（732）
1966 年度スポーツ外貨割当海外登山計画の審議過程　246（733）
お知らせとお願い（会報バック・ナンバーの件）
247(744)，249(775)，250(795)
山内のピッケルについてお願い　金坂　一郎　248（758）
会員名簿のお願い　250（791）
ルーム日誌（1966 年 1 月，2 月）　250（791）

日本山岳協会関係

日本山岳協会設立経過報告（含規約）　296（67）
日本山岳協会設立申請　208（98）
日本山岳協会発会式　209（110）
日本山岳協会その後　渡辺　公平　211（137）
日本山岳協会役員名簿　211（137）
日本山岳協会新役員推薦　240（628）
日本山岳協会役員　241（646）
日本山岳協会役員総会　241（645）
日本山岳協会の新たな組織作りについての考え方　243（666）
協会の新しい組織構想　243（666）
日本山岳協会臨時役員総会　243（678）
日本山岳協会の新組織について―各支部，団体会員のあり方　加藤　泰安　246（720）
日本山岳協会臨時役員総会　249（773）
〃　第一回評議員会　249（773）
〃　役員　249（773）

その他対外関係

第 14 回国体登山実施要領　203（33）
皇太子殿下御結婚奉納スポーツ祭に日高会長ら参加　205（63）
日本体育協会加盟団体長会議　206（75）
第 1 回国立公園大会　206（75）
日本山脈縦走　206（75）
第 14 回国体登山　日高信六郎　207（87）
第 15 回国体に参加して　沼倉寛二郎　212（158）
第 16 回国民体育大会秋田会場試走記　藤島　玄　213（181）
秋田・国体登山―第 16 回国民体育大会　217（252）
第 16 回国体登山部門　日　高　219（276）
第 17 回国民体育大会登山部門　224（381）
国体実地踏査の記　中　保　232（508）
第 19 回国体に参加して
牧野衛，広谷光一郎，君島久登　233（525）
第 6 回国立公園大会　S.H.　234（538）

会　務　報　告（Ⅱ）

集会および催しもの

南極観測隊歓送会（58.10.16）　201（10）
年次晩餐会（58 年）（58.12.12）　201（11）
別宮前会長追悼会（58.12.5）　201（11）
ヒマルチュリ登山隊歓送会（59.2.3）　202（22）
マナスル装備展（58.12.10 於・ニューデリー）　204（50）
ヒマルチュリ登山隊歓迎会（59.7.6）　205（63）
ヒマルチュリ登山隊帰国報告講演とスライドの会（59.7.16）
205（63）
登山講演と映画の会（59.6.30）　205（63）
有志懇談会（59.6.19）　205（63）
ダウラギリ偵察隊歓迎会（59.8.19）　205（63）
ヒマルチュリ写真展（59.8.11～8.16）　206（66）
沼井鉄太郎氏追悼会（59.9.25）　206（75）
テンジン追悼法要（59.10.4）　206（75）
年次晩餐会（59 年）（59.12.10）　207（80）
茨木猪之吉氏追悼会（59.11.5）　望　月　記　208（92）
ウェストン祭（60.6.4）　209（107）
マナスル登頂 4 周年記念の集い（60.5.8）　209（110）
ニマ・テンジン 1 周忌法要（60.5.4）　209（110）
木暮理太郎翁碑前祭（60.5.7）　210（113）
第 3 回心泉亭有志晩餐会（60.6.18）　210（120）
「日本人の記録による大ヒマヤラ展」開催（60.7.23～8.2）
210（127）
山の医学に関するシンポジューム（日本山岳会後援）（60.7.13）　211（137）
木暮翁碑除幕式（60.10.8）　211（139）
海外登山隊並びに南極観測隊歓送迎会（60.11.8）　212（169）
年次晩餐会（60 年）の記（60.12.6）　織内　信彦　213（180）
富田治三郎を偲ぶ会　F　214（196）
海外登山隊歓送迎会（61.2.9）　214（198）
第 15 回ウェストン祭（61.6.4）　F　215（217）
会員有志閑談会の記（61.6.24）　216（225）
法政大学山岳部創立 35 周年祝賀会（太田理事出席）（61.11.11）　218（259）
チャールス・ハウストン氏交歓会（61.11.15）　218（261）
第 2 回木暮祭（61.10.22）　S.H.　218（267）
南アルプスの紅葉会（61.11.12）　山本朋三郎　218（268）
岡野金次郎翁記念碑除幕式（山崎常務理事出席）（61.11.13）　219（277）
年次晩餐会（61 年）記（61.12.1）　山下　一夫　219（280）
中華民国台湾省山岳協会訪日友好登山隊歓迎会（共同声明書）（62.4.21）　221（321）
日本山岳会有志閑談会（62.6.17）　O　222（330）
第 5 回紅葉会（62.11.10～11）　224（371）
大井川しぐれの宴（62.11.6）　中村清太郎　224（371）
この一本展（62.11.28）　224（377）
立教大学山岳部 40 周年記念祝賀会（松方会長出席）（62.10.5）　224（378）
年次晩餐会（62 年）（62.11.28）　日高信六郎　224（379）
今年の木暮祭（62 年）（62.10.20～21）　224（381）
アメリカ・エベレスト登山隊との交歓（62.1.15～18 / 2.5～7）
松　田　226（405）
古市美津雄氏慰労晩餐会報告　松田　雄一　226（405）
第 6 回有志閑談会（63.6.15）　227（418）
昭和 37 年度登山技術研究会（63.4.27～30）　227（430）
松平大使夫妻を囲む会（63.7.16）　松　田　229（449）
梓会総会記（63.8.25）　茶谷　東海　229（450）
エベレスト隊シェルパの歓迎会（63.9.2）
松　田　230（466）
第 6 回紅葉会（63.11.9）　山本朋三郎，日高　230（469）
年次晩さん会（1963年）の記（63.12.3）渡辺　公平　230（470）
志賀重昂生誕百年記念“この一本展”　230（470）
クリシュナ氏歓迎会（63.11.5）　松　田　230（470）
近ごろ土曜会のこと　F　230（477）
三水会について　231（493）
ルームお別れパーティの記（64.6.17）　233（514）

第1回「山の画展」を経えて（64.5.12～14）　交　野　233（519）
第18回ウェストン祭（64.6.7）　S.H.　233（525）
ネ・日協会会長歓迎会（64.3.10）　松　田　233（526）
日本ネパール文化協会発会式（64.12.5）　236（560）
新ルーム披露パーティー（64.8.19）　236（568）
梓会だより（64.8.30）　茶谷　東海　236（569）
お月見とヨーデルを聞く会（64.9.15）　236（569）
有志閑談会（64.6.25）　236（570）
ニマ・ノルブ嬢歓迎会（64.9.7）　236（571）
ニマ・テンジン嬢歓迎会（64.10.24）　236（571）
年次晩さん会（1964年度）（64.12.2）　H.F.　237（579）
高野鷹蔵氏を偲ぶ「この一本展」（64.12.2）　237（579）
駐日インド大使送別会（64.12.4）　237（579）
時又港跡碑除幕式（65.5.9）　240（622）
日ネ協会総会（65.5.15）　240（622）
河口慧海生誕百年記念法要（65.5.22）　240（623）
第9回マナスル会（65.5.9）　240（629）
ウェストン祭（65.6.5）　日高信六郎　241（639）
第1回海外登山懇談会の報告（65.7.5）　242（661）
第2回　〃　（65.8.2）　243（676）
ヒマラヤ隊歓迎会（65.6.24）　243（676）
梓会だより（65.9.5）　茶谷　東海　245（708）
60周年記念祝賀会報告（65.10.14）　245（709）
記念講演会（65.10.15）　245（710）
第3回月例海外登山会員懇談会（欧州アルプス地区）（65.9.6）　245（710）
ヒマラヤン・クラブ日本支部集会報告（65.10.2）　245（711）
60周年記念行事　246(721)，247(740)，248(760)，249(770)
職域団体親睦会のこと（65.9.29）　246（731）
第4回海外登山懇談会（65.9.4）　246（733）
年次晩餐会の記（65.12.3）　山崎　安治　247（748）
槍ケ岳文献展（65.12.3）　248（757）
日本岳連10周年記念会（65.11.20）　248（759）
第6回海外登山懇談会（グリーンランド）（65.12.6）　248（766）

小　集　会

第188回「高山病と凍傷，凍死」（杉本良一，辰沼広吉）　201（11）
第189回「装備に関するシンポジューム」（鳥居鉄也，加藤泰安，初見一雄）　201（11）
第190回「シエラネバダの山旅」（佐々保雄）　202（22）
第191回「ヒマルチュリ先遣隊報告並びに本隊準備報告」　202（22）
第192回「山岳地方およびスキー場の変遷と観光開発」（八方山荘・現地座談会）　203（34）
第193回「ブータン旅行談」（中尾佐助）　204（49）
第194回「早慶日三大学冬山遭難経過」（山崎安治，山田二郎，小金井清治）　205（63）
第195回「クル渓谷紀行談」（三田幸夫，外務省重光事務官）　205（63）
第196回「登山の雨具について」（シンポジューム）　205（63）
第197回「ヒマルチュリ登山報告会」（報告とスライド）　205（63）
第198回「海外登山遠征熱」（加藤泰安，金坂一郎，松田雄一）　206（75）
第199回　第4次南極観測隊員および第3次越冬隊員の歓送会　206（75）
第200回　冠松次郎，武田久吉，高野鷹蔵三氏の話（講演要旨参照）　206（75）
第201回「雪崩に関するシンポジューム」（大井正一，木下是雄，山田二郎，司会 金坂理事）　207（87）
第202回「冬山遭難予防について，（浜野正男，千谷壮之助，山田二郎，司会 太田理事）　207（87）
第203回「山形山岳会の小屋での懇談会」　208（98）
第204回「西北ネパールの旅」（川喜田二郎）　210（126）
第205回「雪男探険隊報告」（大塚博美）　210（126）
第206回「南極越冬の話」（村山雅美他）　210（126）
第207回「ペルー・アンデス」（竹田吉文）（同講演要旨）　210（126）
第208回「台湾の山」（西丸震哉）　210（126）
第209回「アラスカ・マッキンレー登山」（吉坂隆正，交野武一）（同講演要旨）　211（147）
第210回「ヒマルチュリ登頂，アピ登頂」（田辺寿，津田康祐）（同講演要旨）　212（167）
第211回「雪崩に関するシンポジューム」（村木潤次郎・金坂一郎他）　213（185）
第212回　ヌル湯現地小集会　214（197）
第213回「南極観測隊，ニュージーランド親善隊（佐藤隊），ニュージーランド交歓隊（宇田川隊）歓迎会」　216（230）
第214回「ニュージーランド親善隊報告」（佐藤テル，田村協子）　216（231）
第215回「P29遠征について」（篠田軍治）　217（243）
第216回「雪崩に対する対策について」（金坂一郎）　218（266）
第217回「ペルー・アンデスの山々」（吉沢一郎）　220（296）
第218回「蔵王・現地小集会」　220（302）
第219回「インド紀行―デカン高原の旅」（西丸震哉）（同講演要旨）　221（325）
第220回「ビッグ・ホワイト・ピーク登頂」（高橋照）　223（364）
第221回「富士山の雪崩と遭難，その他」（深瀬一男，栗林一路）　224（378）
第222回「サルトロ・カンリ登頂」（加藤泰安）　224（378）
第223回「白骨温泉・現地小集会」　226（408）
第224回「秋田駒現地小集会」　227（420）
第225回「長岡現地小集会」　230（469）
第225回　小集会の記（中河与一）　231（484）
　越後支部での小集会（渡辺公平）　231（485）
第226回「大阪市大，ランタンリルン第2次隊報告」（鈴木武夫）　234（535）
第227回「山岳放談」（藤島敏男）　243（676）
第228回「南極の山」（武藤晃，平山善吉）　246（732）

支　部　情　報

東京支部　会務報告―
201(8)，204(51)，206(75)，207(87)，208(99)
210(124)，211(148)，213(185)，214(198)，215(214)
217(253)，218(267)，219(285)，220(305)，221(324)
223(364)，224(382)，225(398)，226(415)，229(461)
230(477)，232(510)，234(538)，235(554)，236(568)
237(585)，239(614)，241(645)，243(676)，244(692)
245(711)，246(731)，247(753)，249(772)，250(793)
東京支部　スキー講習会―
202(18)，208(99)，213(185)，214(198)，225(399)
237(586)，248(766)
越後支部総会　金坂　一郎　205（60）
信濃支部報告（事業報告，1960年度役員）　209（110）
石川支部報告　209（110）
福岡県山岳連盟登山技術講習会　金坂　一郎　209（110）
関西支部報告　梶本徳次郎　210（125）
信濃支部報告（ウェストン祭を終えて）　清水　悟郎　210（125）
北九州支部報告　210(125)，213(182)，219(285)
富山支部役員総会に出席して　冠　松次郎　211（138）
宮城支部報告　北川　正次　214（199）

東京支部総会報告（1960 年度決算，1960 年度予算並びに役員） 215 (214)
東海支部設立総会—日本山岳会東海支部規約 215 (215)
青森県山岳連盟雪山技術講習会 金坂 一郎 215 (216)
信濃支部登山基礎技術講習会 折井 健一 215 (216)
石川支部便り 215 (216)
宮城支部報告（蔵王山登山道整備について） 吉野 禎造 215 (217)
東京支部報告（夏山相談所を終って） 安彦 六郎 216 (236)
東海支部報告 216(237)，224(382)，227(430)，240(624) 241(647)，245(711)
東京支部 15 周年記念祝賀会 218 (268)
静岡支部報告 219 (284)
越後支部（守門岳から只見川筋へ） 日高信六郎 220 (304)
長野県山岳協会（役員と規約） 220 (305)
熊本支部会員総会 220 (305)
静岡支部便り（二土会の発足） 220 (305)
新潟県山岳協会の新発足 220 (305)
東京支部総会（1961 年度決算，1962 年度予算・役員および日本山岳会東京支部規約） 221 (324)
静岡支部報告（最近の南アルプス・静岡県側のニュース他） 221 (325)
福岡支部集会と登山 221 (325)
山梨支部 事務所変更 222 (344)
山形支部主催・月山の春スキーと熊肉を食う会 村井 米子 222 (345)
大分支部報告 223 (365)
東京支部登山技術講習会 225(398)，228(444)，231(494)，233(524)
東海支部・猪を食う会 226 (414)
氷の山技術講習会 山崎 安治 226 (415)
東京支部総会（1962 年度決算，1963 年度予算・役員） 227 (424)
関西支部報告（1963 年度役員） 227 (430)
山梨支部，金山平懇親会報告 228 (442)
関西支部報告 229 (461)
東京支部総会（1963 年度決算，1964 年度予算・役員） 232 (502)
東京支部婦人部便り 232(510)，234(538)，236(568)
石川支部便り 232 (510)
山梨支部・金山平小暮翁碑前懇親会報告 233 (524)
関西支部報告（1964 年度委員） 235 (554)
石川支部報告（石川県山岳協会規約） 235 (554)
東京支部報告（新潟地震御見舞金について） 235 (554)
越後支部（紅葉の銀山探勝） 236 (568)
石川支部（岩間懇親会の記） 236 (569)
「静岡県支部・もみじ会」に出席して 川喜田壮太郎 237 (578)
越後支部記念登山—佐渡ケ岳紀行 渡辺 公平 237 (578)
秋田支部乳頭山小集会 荒巻 広政 238 (595)
東京支部総会（1964 年度決算，1965 年度予算・役員） 239 (612)
関西支部総会報告（1965 年度委員） 240 (624)
山梨支部・木暮翁碑前懇親会報告 243 (674)
東京支部・ビール・パーティー報告 243 (676)
関西支部報告（1965 年度役員，業務分担） 244 (691)
東海支部現況報告（会員，運営，主要事業等） 244 (691)
信濃支部報告（長野県境地帯一周踏査について） 244 (692)
静岡支部報告 245 (711)
越後支部報告（新潟県境全縦走踏査登山について） 246 (731)
東京支部報頒布 246 (732)
宮城支部（山内東一郎氏火災見舞金カンパにつきお願い） 247 (755)
東京支部・懇親スキー行報告 249 (772)
東京支部・日本山岳協会への加盟経過報告 250 (785)

会員動静・人事往来

一 般 記 事

新入会員—(4769〜6079)—— 201(10)，202(22)，204(50)，207(85)，208(98) 209(111)，211(152)，212(171)，213(186)，214(199) 215(218)，216(237)，217(253)，218(268)，219(284) 220(307)，221(327)，222(344)，223(365)，224(383) 225(399)，226(415)，227(431)，228(444)，230(476) 231(495)，232(511)，233(527)，234(539)，235(555) 236(571)，237(586)，238(599)，239(615)，240(630) 241(647)，242(663)，243(679)，244(695)，245(715) 246(735)，247(755)，248(767)，249(774)，250(794)
ヒマルチュリ登山隊員発表 201 (5)
事務員交替（佐藤氏退職，後任石原氏） 202 (23)
槇氏，米国山岳会名誉会員に 204 (50)
坂本直行氏個展 205 (63)
ネパール国王の来朝 209 (111)
日高会長ネパール出張 211 (153)
ノーマン・ハーディ氏滞日のあらまし 折井 健一 213 (175)
韓国山岳会理事 孫慶錫氏の来訪 折井 健一 213 (175)
カンナ大佐の離日 松田 雄一 213 (180)
事務室人事異動（北河原氏退職・後任吉野氏） 213 (187)
知りたい旧会員の消息 藤島 玄 215 (209)
ヒマラヤ殿下の来朝 216 (223)
モーリス・エルゾーク氏来朝 日 高 225 (389)
ルーム来室者名簿から—付・ルーム来室者統計 (1)，(2)，(3) 古沢 肇 229(462)，230(478)，239(614)
事務室異動（石原氏退職・後任若村氏） 230 (479)
テンジン氏の来日 山崎 安治 231 (481)
テンジン・ノルゲー氏の関西の旅 槇 有恒 231 (483)
モーリス，エルゾーク氏の来日 近藤 等 236 (559)
ニマ・ノルブさんの滞日記 広谷光一郎，杉浦耀子 236 (570)
近藤，槇両名誉会員の叙勲 成瀬 岩雄 239 (601)
シカゴ山岳会長・ミセス・マレンを迎えて 杉浦 耀子 240 (622)
お客をにがす 吉 沢 240 (623)
お客をつかまえる 242 (658)
イラン山岳会員 Mr. MEHDIZADEH 来日の件 243 (677)
ネパールへの往来 244 (682)
韓国登山隊の来日について 244 (694)
駐日ネパール大使着任 244 (694)
沼倉氏ら 5 名を国立公園指導員に委嘱 245 (711)
新名誉会員紹介—日高信六郎氏・藤島敏男氏・神谷恭氏・藤木九三氏 望月 達夫 246 (719)
高頭家の近況 246 (719)
会員係よりお願い（名簿完成・新入会員等記載様式変更の件） 246 (735)
橋本三八氏の病状変化 246 (735)
叙勲（日高信六郎氏・石原憲治氏） 247 (755)
ニマ・ガルツエンのこと 杉浦 耀子 248 (763)
世襲会員覚え書 松田 雄一 249 (772)

訃 報 ・ 追 悼

林並木氏 (49) の逝去 小松 勇 201 (6)
林並木さんについて 沼井鐵太郎 201 (6)
伊藤 隼氏 (2271) 202 (22)
伊藤隼さんの憶い出 小林 義正 202 (21)

井形健一氏（4239） 203（35）
沼井鉄太郎氏（492） 205（63）
沼井さんと二高山岳会 横田 敬一 206（69）
亀岡英一氏（2341） 207（82）
武井直澄氏 高野 鷹蔵 207（83）
茨木画伯の年譜 小野 幸 208（93）
大橋進一氏（34） 208（99）
富田治三郎氏（3671） 208（99）
三木高嶺氏（760） 208（99）
岡本信三氏（1343） 208（99）
クロフォード氏の死 松田 雄一 209（103）
訂 正 211（154）
久保田善三郎氏（270） 213（187）
柴野利秋氏（4931） 213（187）
伊勢 環氏（1559） 213（187）
大槻英芳氏（5132） 215（219）
大阪市立大学ヒマラヤ遠征隊 森本嘉一，大島健司，ガルツェン・ノルブ三氏合同葬一本会弔詞 216（234）
大島健司君のこと 橋本 信行 216（235）
小島好氏（小島烏水氏未亡人） 217（255）
山崎春雄氏（1289） 218（270）
香地博方氏（4830） 218（271）
田辺和雄君を悼む 深田 久弥 219（280）
武智直道氏（19） 219（286）
山崎春雄氏 藤島 敏男 220（298）
溝口岳人氏（4918） 220（307）
栗津寿八朗氏（4465） 220（307）
喜多 要氏（822） 220（307）
父・米沢牛歩の思い出 米沢 憲造 221（316）
米沢牛歩君をしのぶ 藤木 九三 221（317）
米沢牛歩氏の追憶 直木重一郎 221（318）
ノイスとロビン・スミスの遭難 222（339）
藤原文雄氏（4624） 223（367）
橋本竜吾君（4347）を悼む 日高信六郎 225（397）
大森明恍氏（4068） 225（399）
工藤 弘氏（3165） 225（399）
錦織宗寿氏（2187） 226（415）
バアリー中佐死去 230（479）
吉田竹志氏（952） 230（479）
吉田翁の想出 瀬名 貞利 231（489）
三輪 孝氏（5464） 231（494）
市東寿雄氏（4451） 231（494）
西岡一雄氏（1221） 231（494）
井口真司氏（2689） 231（494）
梶原信男氏（2082） 231（494）
西岡さんさようなら 吉沢 一郎 231（488）
津軽不二雄氏（元本会書記） 231（494）
会員 吉川良平氏逝く 石黒 清蔵 232（509）
吉川良平氏（2954） 232（511）
田中秀作氏（411） 232（511）
カイザー・シャシャル元帥逝く 233（526）
在ネパール，ダヤルインド大使逝く 233（527）
ロングスタッフ博士逝く M 234（530）
追悼・山の画家三輪さん 小野 幸 234（535）
篠原敏弘氏（4838） 234（539）
高野鷹蔵氏（3）略年譜 235（543）
高野君の思い出 武田 久吉 235（541）
高野鷹蔵君を悼む 中村清太郎 235（542）
高野君の訃報 三枝 守博 235（543）
高野君のこと 山川 黙 235（543）
篠原敏弘氏 関口 周也 235（544）
住 広造氏（193） 望月 達夫 239（615）
山口国俊氏（2718） 古沢 肇 239（615）
柴山乙彦氏（259） 242（663）
瀬能重衛氏 242（663）
〈君島久登君の死を悼む〉
君島久登君のこと 広谷光一郎 243（669）
君島久登君の遺骨を迎えて 鈴木 郭之 243（669）
君島久登氏（5025） 243（679）
R・リクメルス逝く 244（692）
福田庸雄氏（1883） 244（695）
塚本閤治氏逝く 245（710）
故増田繁雄氏（3482）のこと 245（715）
橋本三八氏（1713） 247（755）
山川勇一郎氏（5707） 247（755）
森本次男氏逝く（1088） 248（766）
山川黙氏（名誉会員7） 248（767）
福田庸雄氏 望月 達夫 249（774）
山川黙君と私 武田 久吉 250（778）
山川（旧姓河田）黙氏略歴 山崎 安治 250（778）
穂苅三寿雄氏（2701） 250（791）
竹中 要氏（2135） 250（791）

海外登山情報

（論説，研究，随想欄，会員通信—国外関係欄参照）

ヒマラヤン・ニュース—アマ・ダブラム（英・伊），チョー・オユー（女性国際），エベレスト，プモリ（インド），ダウラギリ（オーストリー） 202（14）
パタゴニアへの新遠征計画（イタリー・アルゼンチン） 202（17）
最近のフランス登山界—① 1958年のシーズン，② ジャン・クジーの死，③ ジャヌー 1959 年，④ 国際アルピニスト親睦会 近藤 等 204（43）
エベレストの新地図 204（50）
フランス登山界の近況— ① 国際アルピニスト大会，② ジャヌーの中間報告 近藤 等 206（71）
欧州アルプスの遭難者 206（72）
●海外登山審議会規約，ヒマラヤ委員会規約 208（98）
今年のヒマラヤ登山—ダウラギリⅠ，エベレスト，アンナプルナⅡ，K_2 他 208（99）
マッキンレーへも—早大・明大 208（99）
神戸大アンデス探険隊 208（100）
海外だより—ダウラギリ登頂（国際隊），アンナプルナⅡ登頂（英・印・ネ）他 209（105）
ガネッシュ・ヒマール，トリスル登頂 209（111）
ヒマラヤ登山年表について 松田 雄一 210（128）
ヒマラヤン・ニュース—ガネッシュ・ヒマール，ディステギル・サール，マッシャーブルム主峰 210（128）
京大隊・ノシャック初登頂に成功 211（151）
雪男，印度北部で発見？ 211（151）
トリヴォール初登頂 212（169）
ヌプツエに初登頂 215（205）
ヒマラヤ登山学院々長の交代 220（297）
ヒマラヤン・ニュース—ビッグ・ホワイト・ピーク登頂，ヌプチュ登頂，他 221（309）
●ペルー政府発表の免税処置と報告義務 222（346）
●ネパール政府登山規則に対する追加規定（吉沢一郎訳）追補（藤原文雄訳） 222（346）
ヒマラヤン・ニュース—英女子隊カンジロバ・ピークに登頂 222（347）
●ネパール政府登山規則を一部改正 Y.M. 223（366）
プモリの登頂 吉沢 一郎 224（372）

アメリカ山岳会の"ニューズ"より— ① 平和部隊，② グランドジョラス北壁のウォーカー・スパー，③ アイガー北壁，④ エベレスト遠征　吉沢　一郎　225 (387)
ネパール政府登山規則改正について　付，アプリケーション・フォーム　松田　雄一　228 (446)
●ネパール・ヒマラヤ登山隊に対する注意要望事項　付・松平大使の要望書　松田　雄一　235 (546)
●ネパール・ヒマラヤへ入る登山隊のインド通過に対する通関手続について　235 (548)
海外だより— ① ドルジエ・ラクパとガンチェンポの試登（英・瑞），② タールン峰初登頂（独），③ アンナプルナ南峰初登頂（京大），④ ヒラリー隊の活動　236 (562)
ヒマラヤン・ニュース—新しくタイガー・バッジを与えられたシェルパ等　237 (586)
アメリカ便り　吉沢　一郎　240 (621)
ガウリサンカール（英）試登　240 (621)
Mushao のこと　吉沢　一郎　240 (622)
インド隊エベレスト登頂　松　田　240 (624)
●エベレストの名称統一について　松　田　240 (626)
●ネパール政府による国内旅行禁止地域について　松　田　240 (626)
●台湾の登山における入山許可について　折　井　240 (627)
インド隊（1965 年）エベレスト成功の一因　在インド谷種臨時代理大使　241 (639)
ヒンズークシュ情報（ワハン地区入山拒否）　241 (644)
ヒマラヤン・ニュース—デューナギリー，ガネッシュ・パルバット　241 (644)
●英国からのヒマラヤ登山に対する申請についての注意　241 (644)
●カラコルム登山許可状況　241 (644)
ネパールに大使館—外務省在外公館を強化　242 (652)
●ネパール国大使館のお知らせ　242 (662)
最近の中部ヒンズークシュ情報　吉沢　一郎　242 (655)
●ペルー国への登山隊の通関について（外務省要望事項）　242 (663)
スイスと欧州の最高峰　243 (667)
●JAC 海外登山に対する推薦状発行規定　243 (677)
ヒマラヤ計画の変更および延期について　244 (682)
ネパール情報（Mountaineering Institute の開設，ブー・ドルジェ叙勲，イラン隊のアンナプルナ，ユーゴ隊カンバチェン，英ダウラギリ四峰）　244 (687)
Civetta 北壁の新直登なる　244 (686)
海外情報三つ—① ガンガプルナ（ドイツ），② 女性によるマツターホルン北壁初登攀，③ イエルパハ南峰（ドイツ）　244 (686)
フランス登山界の近況—①リオネル・テレイの死，②国際アルピニスト集会での登攀，③ジャヌー報告書④レビュファの新著「マッターホルン」，⑤モン・ブラン・トンネルの開通　近藤　等　245 (707)，246 (726)
インド・エベレスト登頂隊時間表　246 (727)
セント・エライアスの新登頂　247 (738)
ローガン南稜初登攀　247 (741)
●パキスタン登山不許可に関する公式通告　247 (743)
カフカズ登山不許可　248 (757)
マツター・ホルンにもう一つの初登　248 (761)
ニュージーランド登山集会について　249 (772)
ペルー・アンデス（1965）　248(761)，250(778)
海外情報—① Lasistan 踏査行（独・墺），② サウス・ジオージア島，③ ダルバン峰初登頂その他　250 (788)

図　版・写　真

新旧 5 万分の 1 地形図の一例　213 (179)
ランタン・リルン（写真—風見武秀撮影）　215 (203)
サマウェル夫妻を囲んで（写真—交野武一）　217 (244)
ププヤ山群スケッチ（吉沢一郎）　217 (254)
P 29 付近概念図　218 (258)
上高地山荘位置および平面図・南面図　218 (260)
剣沢・大滝付近　218 (262)
野麦峠古碑写　218 (265)
ムクト・ヒマール付近概念図　221 (310)
チャムラン付近概念図　222 (333)
前穂高古道　222 (335)
宇治長次郎と佐伯平蔵（写真）　226 (409)
エベレスト付近概念図　227 (421)
ヌンブール峰・スケッチとルート図　228 (436)
Thanhonge Tower のスケッチ　228 (437)
石黒氏一行の劔岳池の谷初登攀ルート図　229 (450)
バツーラ山群概念図　229 (455)
サイパルの南尾根ルート図　230 (466)
シャルプ概念図　230 (467)
新ルーム付近略図　233 (517)
豊後国大絵図　239 (605)
ミール・サミールへのアプローチ，ミール・サミールおよびシャーフラディ付近略図　242 (654)
中部ヒンズークシュ KHWAJA MUHAMMAD 山群概念図　242 (655)
ローツェ・シャール登攀（写真 4 葉）　243 (671)
飯豊三題（写真 3 葉）　243 (675)
キンヤンキッシュ登攀ルート　244 (685)
西北からのローガン山塊　244 (687)
アンナプルナ山群概念図　245 (700)
モンテ・ローザ付近概念図　245 (701)
ワイワッシュ中央部　〃　245 (701)
Mt. ALBERTA 付近概念図　245 (702)
アルバータ山登攀ルート図　245 (703)
カナディアン・ロッキーズ（写真 3 葉）　245 (702)
中央ヒンズークシュ概念図　245 (704)
ローガン峰写真集（写真 5 葉）　245 (706)
セントエライアス山群概念図　246 (723)
ドンジュク峰（写真）　246 (724)
ペルー・アンデス概念図　246 (725)
中央カフカズ概念図　247 (739)
第 6 キャンプからキンヤン・キッシュ頂上（写真）　247 (745)
60 周年寄贈・記念品（写真）　247 (747)
ワディントン付近スケッチ　247 (750)
中部チリ・アンデス Rio Morado 流域概念図　250 (784)
C I から見たセロ・ヤマカワ　250 (785)
ダルバン・ゾームの位置（ヒンヅー・クシュ）　250 (788)

そ　の　他

会報総目録（151～200 号）正誤表　202 (23)
「マナスル」1954～6 年の正誤表　203 (34)
山日記について（1959 年版の正誤表）　204 (46)
新版 5 万分ノ 1 地形図発行状況（35 年 11 月）　212 (169)
「山岳」第 58 年正誤表　232 (510)
「山岳」第 59 年英文欄訂正　238 (598)

日本団体生命はわが国における
グループ保険の**開祖**です。
個人保険も
登山保険も行なっております。

昭和生れのホープ

本店・東京都千代田区丸の内 2-1 電話(281)3211(代表)
小伝馬町別館(役員室，総務部他) 電話(662)3311(代表)
・東京都中央区日本橋小伝馬町 3-2
支店(大阪・名古屋・福岡・札幌)　**支社**(東京他 23)

日本団体生命

中林製本手帳株式会社

営業種目

図書館製本	各種手帳
出版製本	各種印刷
事務用品	特別製本
製本機械	

60年の伝統を誇る

東京店・東京都文京区水道端 2—15　電話(943) 0311(代表)
大阪店・大阪市都島区相生町 7　電話(352) 3491(代表)
名古屋店・名古屋市昭和区雪見町 1—15　電話(731) 7331(代表)
工　場・大阪府堺市・埼玉県戸田町